

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 1 月 13 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	社会福祉法人 口和福祉会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	広島県庄原市口和町永田4 1 3 番地 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日	平成22年11月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3492100031&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

今年度は行政と社協と合同で認知症サポーター養成講座を地元小学校で開催。今後も行政、社協と力を合わせ高齢者が暮らしやすい町づくりに貢献していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム口和（以下、ホーム）は、特別養護老人ホームを母体とした開所4年目のホームです。 今年度は、地域に出て行く活動を重点的に取り組まれ、地域住民が認知症を持つ高齢者の理解を深められる機会を「認知症サポーター養成講座」として小学校児童に提供されました。 管理者が認知症介護指導者養成研修を受講するなど、認知症高齢者に対してより専門的で水準の高いケアを提供する方針があります。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は掲げているが浸透していない。	5つの柱で構成される理念が作成されています。日々のケアの中で理念に基づいた実践となっている場面も見受けられました。	理念は、具体的で分かりやすい言葉で書かれていますが、家族・利用者・来訪者にも分かるように掲示されることを提案します。また、事業所内の掲示は、職員の意識付けを強化することにもつながります。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的には交流は無いが「夏祭り」「秋祭り」など地域の行事には参加している。	母体法人を通して地域との付き合いがあります。地元の保育園、小学校の発表会の見学や、祭りに参加することもホームの恒例行事になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は行政、社協と合同に地元小学校にてキャラバン・メイト、サポーター講習を開催する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員、行政に対し当事業所での活動を報告し事業所運営に反映している	直近の運営推進会議では、「認知症サポーター養成研修」開催を案内するなど、認知症高齢者の理解を深める機会として積極的に活用されています。出席者から、利用者の生活の様子を写真に撮って提供してほしいとの提案を受け、以後毎月実行されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度は市担当者と連絡を取り合うように、取り組んでいきました。最終的にはサポーター養成講座の開催が出来ました。	今年度、地元の小学校5～6年生を対象に「認知症サポーター養成研修」を開催されました。講座は、行政と市社会福祉協議会との共催で行い、事前準備の段階からの協働作業を通じて一層連携が深まっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実施している。	利用者の状態は刻々と変化することを念頭に置きながら、その都度最善と考えられる関わり方ができるよう職員同士で話し合って方針を決めておられます。また、身体拘束廃止のためのマニュアルも大変分かりやすく整備されています。	職員数が少ないこともあり、全員が集合して研修を行う機会が作りにくいとは思いますが、マニュアルを読み合わせるなどして、今一度、ホームとして意識統一のための研修を計画されることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実施なし。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の説明は行っている。家族からの疑問、要望等は随時受け付けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に出席していただき意見を出してもらい施設運営に反映させている。	運営推進会議で出された意見は、利用者との日々の会話に活かしたり、行事に活かしたりするなどされています。家族から生活の様子を撮った写真の提供を希望された時は、提案を受けた翌月以降欠かさず便りと一緒に送付され、喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	随時意見や要望を聞いている。	職員からは、ケアに関する内容の質問が多く出されています。パート職員が多いこともあり、対応方法を役職者に相談することが中心となっています。畑や花壇の手入れについて職員から提案を受けることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を行っている。新人職員（資格なし）は施設の方針でヘルパー研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的にキャラバン・メイト連絡会に参加し他施設職員との情報交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント等を参考に利用者様の声を大切にしてコミュニケーションをとっている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援は行っているが、他のサービスを含めた対応は過去になし。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	同じ屋根の下で暮らす家族のように過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、本人と家族の架け橋の様な存在となり家族が面会に来られると本人と家族の時間を大切にするように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めている。	職員が町内で家族や関係者に出会った時は、来訪を積極的に促すよう心がけておられます。 利用者の行きつけの理容院に連れて行くこともあります。その時は店の人が近所の人を呼びに行き昔話に花が咲くこともあります。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者同士の間に入り円滑にコミュニケーションが取れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所となったとしても本人、家族との関係を崩さないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人のおもいを汲み取りサービスに努めている。	1対1で過ごす機会を大切に考え、居室や風呂場でゆっくり話を聞くよう努めておられます。その時に出た話や希望をケアプランに反映されています。 また、認知症の症状や進行状況を理解した対応ができるよう心がけておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを重視してその人らしい生活環境を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中で発見し日々その人の把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の要望、家族の要望を聞き取り現状にあったサービスを提供している。	3か月ごとのモニタリングと評価が丁寧に行われています。職員からの日々の気づきを得てケアプランへ反映されています。	モニタリングと評価の仕組みが確立されているので、さらにステップアップするために、ホームの理念との整合性を図ったケアプランを作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その人にあったケアなど職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	家族や地域の方々の協力で本人や、事業所が安心して過ごす事が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望しているかかりつけ医に受診している。主治医とは連絡を密にして本人が安心して過ごせるよう努めている。	ホームから徒歩圏内にかかりつけ医と歯科診療所があります。通院は、職員が同行して行っています。歩ける利用者にとっては、気分転換にもなっています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設施設の看護職員との連絡を密にして日々の利用者の状態を観察し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に関係作りは行っていないが入院時の状態、経過等は面会等などをして行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化については併設施設への移動、終末期ケアは行っていない。	母体が特別養護老人ホームであるため、ホームでは役割を分担されています。契約時に重度化した場合の対応については、十分説明が行われています。また、入院による退去後の生活についての相談にのっております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、3月と11月に利用者も参加して避難訓練をおこなっている。	今春、スプリンクラーの設置が完了しています。また、母体法人の特別養護老人ホームと地元消防団が合同で行う避難訓練に参加し、消防団の救援先にホームも加えられました。さらに、共用ホールからも避難できるよう避難路を増やしております。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりを個と見て接している。その人が持っている誇りや人格を尊重して接している。	月間の行事予定表が個人ごとに作成されて居室に張り出されています。また、利用者本人にとって分かりやすい言葉を使うよう、会話にも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来る環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人本位の暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に準備や片付けを行っている。	職員が交替で調理を行いますが、食材の買出しに一緒に行ったり、献立のアイデアを出してもらったりして一緒に食事を楽しんでおられます。訪問日には、食事後の食器洗いを手伝う利用者の姿がありました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失敗や，オムツ使用にならないようトイレでの排泄を促している。	利用者の排泄パターンは，支援記録と引き継ぎで把握されています。夜間は，排泄の失敗を少なくするためにポータブルトイレを使用する利用者もいますが，トイレに起きて来る利用者は誘導しておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように乳製品の摂取や，運動をおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	個々にあった入浴を支援している。	概ね2日に1回の入浴ができます。入浴剤の入ったお湯に入りたい利用者がいた場合は，入浴の順番を相談して希望に応じるようにされています。また，車椅子の利用者は，併設施設の特殊浴槽を活用して入浴されています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と連絡をとりあい服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの持っている力を発揮出来る様に支援し楽しい生活を送れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に外出をしてもらい季節を感じていただくよう努めている。	敷地内の庭は人通りが多いので、気候のよい時期にはほぼ毎日のように外に出る時間があります。 また、敷地内の併設施設を利用している友人の所に遊びに行くなど、目的を持った外出が行われています。冬の時期に雪だるまを作ることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人、家族が強く希望しない限りお金の所持はしてもらわないようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が安心し、心地よく過ごせるよう努めている。	共用ホールの壁いっぱいにもり絵やちぎり絵の作品が飾られていました。また、訪問日はクリスマス前だったので、窓ガラスも飾りつけられ、季節感あふれる空間となっていました。 また、中庭の木がライトアップされ、利用者の目を楽しませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様が安心し、心地よく過ごせるよう努めている。一人になっても過ごしやすいように廊下や玄関先には椅子を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が安心し、心地よく過ごせるよう努めている。	ベッドはレンタル、エアコンとカーテンは備え付けです。その他の家具は、利用者と家族が配置を考えてそれぞれ個性的な部屋となっています。 また、換気にも配慮され、居室にいない時間帯に空気の入替えが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	とくには工夫はしていない。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 平成 23年 2月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念は掲げているが職員に浸透していない。また、サービスに活かされていない。	職員全員が理念を共有し理念に基づいたサービスを利用者様に提供する。	5つある中の理念をまずひとつずつ職員間で理解し、サービスを提供していく。	1年
2	1	〃	〃	事業所内に掲示する。	掲示して意識付けを行っている。
3	5	事業所内研修を行う機会が少ない。	定期的に事業所内での研修を行う。	認知症状の知識とマニュアルの理解を職員間で意識統一する。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。